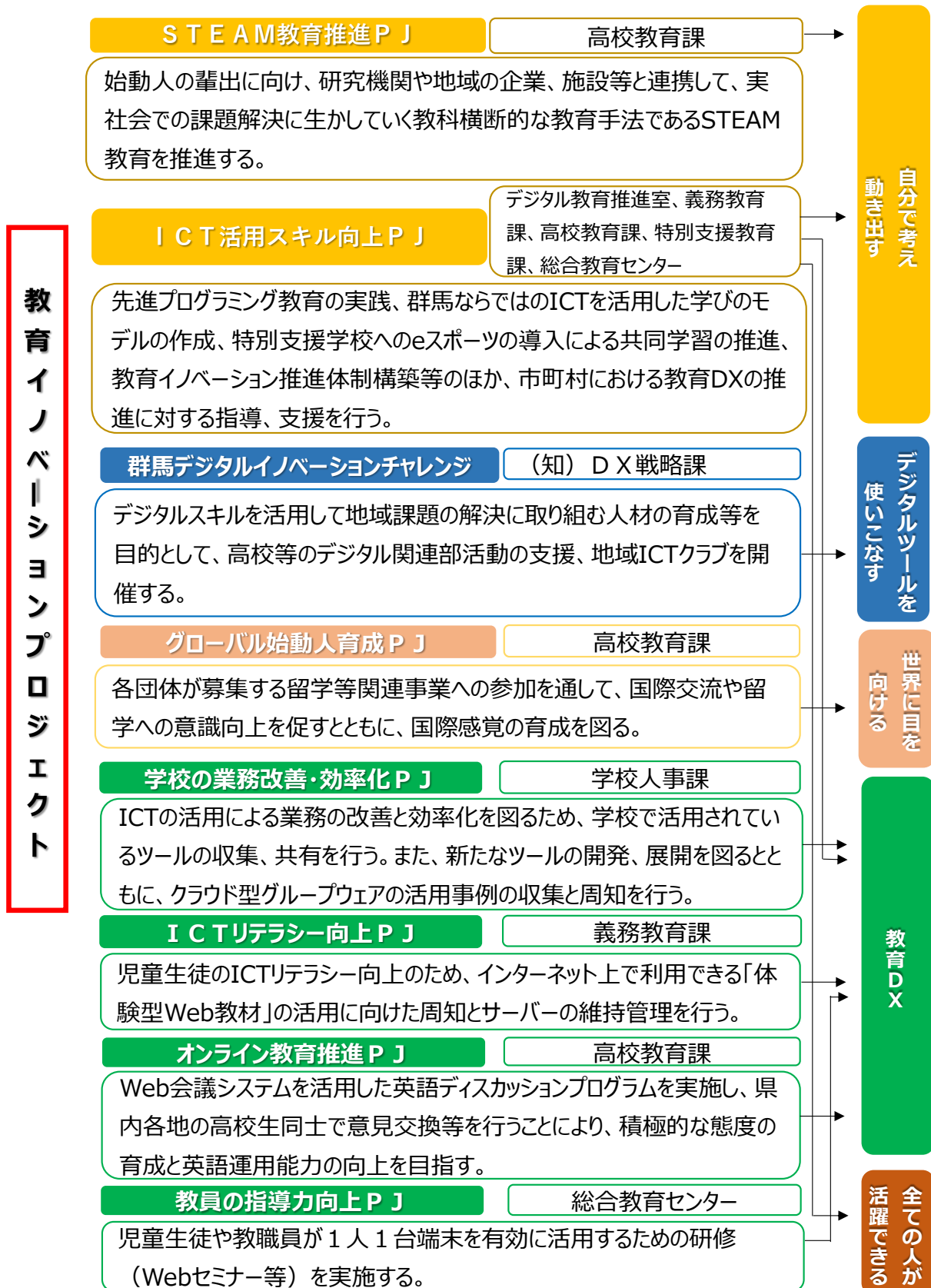


8 教育イノベーションプロジェクトについて

教育イノベーションは、令和2年度にスタートした群馬県の教育改革です。これまでの実践をもとに、「群馬の環境を生かした教育」×「デジタルを活用した新しい教育」による、誰一人取り残さない「群馬ならではの新しい学び」を実現し、「始動人」（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持った人）を育てることを目指すプロジェクトです。



(2) 令和4年度における取組実績、成果、課題 ※教育委員会の取組のみを掲載しています。

STEAM教育推進PJ		担当課	高校教育課
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・数学コンテスト 7月27日に開催し、19校474名が参加。9月13日に社会人講師による事後研修会を行った。 ・数学キャンプ 10月9日、23日に実施し、23名が参加。講義を受け、研究活動に取り組んだ。 ・科学コンテストは、11月19日、12月10日に実施し、13校103名が参加。筆記競技と実験競技、実技競技に取り組んだほか、民間企業の研究者による講演会を行った。 		
成果	各取組において、第一線で活躍する研究者や社会人講師からの講義を受けることで、未来に向けて新しい価値を創造するための資質や能力を育成する契機とすることができた。		
課題	本事業での成果を県立高校全体で共有するための施策について検討する必要がある。		
ICT活用スキル向上PJ		担当課	総務課デジタル教育推進室、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、総合教育センター
令和4年度の取組実績	<p>【ICT教育推進研究協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進研究協議会を3回開催し、ICT教育に関する情報共有を行うとともに、傘下の3つのワーキンググループにおいて、具体的な課題の検討を進めた。 <p>【民間企業と連携したデータ活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディ・ログについては、高等学校のモデル校において到達度テストを実施し、テスト結果に応じた個別の動画や課題の自動配信に係る事業を実施した。また、ライフ・ログについては、小中学校及び高等学校のモデル校において、児童生徒に心理状態を含む健康状態を端末から入力させ、データを教職員で共有することにより、児童生徒への支援に取り組んだ。 <p>【教育DX推進センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内5つの教育事務所にICT機器の運用管理・活用に関する知識・経験を有する教育DX推進コーディネーターを各1名配置し、学校への支援やオンライン学習サポーターへの研修会を実施した。 <p>【ICT活用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用促進プロジェクト（モデル校事業）において、拠点校、実践推進校として28校を指定し、小中学校教員を対象に80授業を公開した。公開授業では延べ1078人が参加した。 ・県Webページの「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」の中に、モデル校での取組（実践事例）や「問題解決的な学習を充実させるICT機能」などの授業改善参考資料を掲載し、県内の小中学校に周知した。 ・（株）リクルートに委託し、中学校4校において、「家庭と学校の学びをつないだ授業」を実践し、事例集を作成した。 ・（高）「県立学校等ICT活用モデル～Gunma Model Advanced～」を周知し、各種研修で活用した。 ・（高）ICT教育推進研究協議会のWG②として2回の協議会を行い、更なる活用方法について研究を行った。 		

令和4年度の 取組実績	<p>【オンライン学習サポーター配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教育事務所のICTコーディネーターや市町村教育委員会と連携し、小中学校にオンライン学習サポーターを100名配置し、県内小中学校に配備された1人1台端末を活用した学習を促進した。 サポーターの技術向上のため、各教育事務所のコーディネーターが講師となり、年間3回の講習会を実施した。 <p>【県立特別支援学校ICT推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立特別支援学校7校を実践協力校とし、ICT機器を活用した実践を推進。年間3回のWG及び年度末WG報告会にて、各校の取組状況について情報を共有した。 <p>【先進プログラミング教育実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル校事業を推進するとともに、集中セミナーを実施した。
成果	<p>【ICT教育推進研究協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まではモデル校等の代表者のみの参加であったが、第3回のICT教育推進研究協議会から、全市町村教育委員会が参加する協議会とした。このことで、全県でICT教育を推進する体制を構築することができた。 <p>【民間企業と連携したデータ活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> スタディ・ログの活用については、テスト結果に応じて配信された個別の動画に取り組んだ生徒について、学力向上に一定の効果があることが示された。また、ライフ・ログの活用については、児童生徒の状況を教職員全体で共有することができ、児童生徒への支援に非常に有効であった。 文部科学省の教育データの利活用に関する有識者会議で、群馬県のライフ・ログの取組について事例発表した。 <p>【教育DX推進センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教育事務所の指導主事と連携し、学校現場におけるICT活用推進について、技術面から支援するとともに、学校のニーズに応じた研修会やオンライン学習サポーターを対象とした研修会を実施した。 <p>【ICT活用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業を行う教員の割合は大幅に増えるとともに、モデル校事業を通して、ICTを活用した授業のよさを感じる教員の声を聞く場面が増えた。 「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を随時更新することで、教員に対してICTの有効活用を促進することになった。 (高)新たに38の実践事例を収集するとともに、基礎的な使い方についてまとめることができた。 (高)令和5年度ICT活用指針を作成した。 <p>【オンライン学習サポーター配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で使用する端末の準備、授業中のICT機器の操作支援や機器トラブルへの対応、端末の操作に戸惑いを感じている教員への対応など、多岐に渡る業務を行うことで、授業における児童生徒のICT活用の促進に寄与した。 年3回実施した研修会では、各サポーターのスキル向上ができたとともに、情報交換を通して、各学校や地域の成果や課題を確認することができた。 <p>【県立特別支援学校ICT推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用に向け校内研修で取り組んだ実績について、2校から実践報告した。授業準備等の業務軽減につながるICT教材の校内での共有方法やICT活用をスムーズに進めるための取組等について全校で情報共有することができた。 <p>【先進プログラミング教育実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル校事業では、総合的な学習の時間においてテキストプログラミングを取り入れた授業実践を進め、全県に向けて公開授業を実施した。さらに、その成果をWebページで発信することができた。 集中セミナーでは、大学教授や企業の専門家を講師として、小学生部門、中高生部門ともに3日間のセミナーをオンラインで実施した。さらに、その成果をWebページで発信することができた。

課題	<p>【ICT教育推進研究協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育推進研究協議会については、3年間実施をしてきて、一定の成果を上げることができた。今までの成果と課題を整理し、協議会や傘下のワーキンググループの在り方について見直す必要がある。 <p>【民間企業と連携したデータ活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育データの利活用については、デジタル庁から教育データの利活用に関するロードマップが示された段階である。引き続き、国の動向を注視しつつ、個別最適な学びの実現に向けて、スタディ・ログとライフ・ログを融合した活用を進める。 <p>【教育DX推進センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度化、多様化する教育のデジタル化への対応と校務のデジタル化に向け、これまでのモデル校における効果的な実践事例を集約した「教育DXリスト」を全県展開し、DXを基盤とした新しい学びの確立と業務改善を一体的に推進する。 <p>【ICT活用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まずは使ってみる段階」として、ICTを活用した授業作りは推進されたものの、ICTを活用すること自体が目的となる授業が見られた。 ICT活用促進に伴って新たな教育実践が進む中、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について具体化する必要がある。 (高) 教員間のICT活用に対する温度感の違いが課題である。そのため、学校全体としての取組が必要である。 <p>【オンライン学習サポーター配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての学校に支援を行うことができなかったため、地域差や学校差を完全に埋めるまでには至らなかった。 ICT活用において高度化や多様化が進み、それらに対応するためにオンライン学習サポーターのスキルの向上が必要となった。 <p>【県立特別支援学校ICT推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校においてICTを活用した実践を共有するため、授業実践動画を定期的に作成・更新していく仕組み作りが必要である。(個人情報、著作権等) <p>【先進プログラミング教育実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル校事業の実践や集中セミナーについて、Webページを視聴して関心をもち、問合せを寄せた県内の学校に対し、内容の説明や教員の研修、教材の貸出等の支援をする必要がある。
----	---

グローバル始動人育成 P J	担当課	高校教育課
令和4年度の取組実績		「ぐんま高校生グローバル・デイ」を実施。海外留学を経験し、多方面で活躍されている方の基調講演のほか、県内のALTや県内で学ぶ留学生と交流の機会を設けた。25名の生徒が参加した。
成果		留学に関心を持つ県内の高校生に対して、さまざまな情報を提供する機会となった。また、留学生やALTとのディスカッションが、留学に対する関心・意欲喚起へつながった。
課題		世界に目を向け活躍する人材の育成に向け、引き続き事業内容を充実させる必要がある。

学校の業務改善・効率化PJ		担当課	学校人事課
令和4年度の取組実績	・ICT教育推進研究協議会のワーキンググループや教職員の多忙化解消に向けた協議会の取組を通して、校務の業務改善に関する情報収集・意見交換を進めた。		
成果	・「教職員の多忙化解消に関する協議会の提言R5」に、ICT化を推奨する業務例を盛り込み、学校現場での取組を推進した。		
課題	・ICTの活用によって改善が可能な業務について引き続き検討するとともに、業務自体の見直し、改善も引き続き進めていく必要がある。 ・各市町村・各学校において、温度差なく取組が進むよう支援が必要である。		

ICTリテラシー向上PJ		担当課	義務教育課
令和4年度の取組実績	・情報モラル講習会を小中学校で実施した。 ・携帯インターネット問題講習会を小中学校生徒指導対策協議会において実施した。		
成果	・小中学校生徒指導対策協議会において、ぐんま子どもセーフネット活動委員会理事長を講師に招き講義をしていただくことで、小中学校にネットリテラシーの向上に向けて学びの機会を提供できた。 ・県作成のネットリテラシー向上動画教材・体験型web教材等を活用し、ネットリテラシー（判断力・自制力・責任能力・想像力）の育成について小中学校に働きかけることができた。		
課題	・インターネット利用に関わる課題や対応法を地域や保護者にも広く周知していく必要がある。		

オンライン教育推進PJ		担当課	高校教育課
令和4年度の取組実績	・県立女子大学外国語教育研究所の研究員を講師に、オンライン英語ディスカッションプログラムを計3期（15日間）実施。のべ41人の生徒が参加した。		
成果	・県内各地の公立私立高校の生徒が、それぞれ自宅のPC等から参加し、オンラインの良さを生かした学びの機会を提供することができた。		
課題	・各学校において、外部講師とオンラインでつながった交流を行うなどの取組が進んでおり、今後も各校の実情に合わせたオンラインの活用が望まれる。		

教員の指導力向上PJ		担当課	総合教育センター
令和4年度の取組実績	・1人1台端末の活用に向けたWebセミナー、研修及び市町村への研修支援を実施した。		
成果	・市町村や学校の実態等に応じた研修支援を5回実施することができた。 ・定員の制限なく視聴できるWebセミナーを2回実施することができた。 ・1人1台端末の活用に向けたオンラインミニ研修を4回（参加人数約330名）実施することができた。 ・1人1台端末の活用に向けて、教職員を支援するWebサイト（ICT活用教育サポートサイト）の内容を適宜更新して運用することができた。		
課題	・1人1台端末を円滑に活用するためには、今後も継続的な研修（市町村や学校の状況に応じた研修）が必要である。 ・個別最適な学びや協働的な学びを充実するための具体的な研修が必要である。 ・ICT活用教育サポートサイトのコンテンツの充実が必要である。		

(3) 教育イノベーションに関する参考指標の状況、令和5年度の方向、点検・評価委員会の主な意見

参考指標の状況

教育イノベーションについては、第3期群馬県教育振興基本計画における指標がないため、「新・群馬県総合計画（基本計画）」の指標を「参考指標」として掲載します。

参考指標		策定時		目標値	2023.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
児童生徒のICT活用を適切に指導する能力が身に付いている教員の割合 （「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より）		71.7%	2019	95.0% 以上	75.3%	2021	15.5%	
ICTを活用した授業をほぼ毎日行っている教員の割合 （「全国学調・学校質問紙」より）	小	27.0%	2019	100.0%	63.0%	2022	49.3%	全県で1人1台端末が導入され、各学校において授業での端末の活用が促進されたため。
	中	40.5%	2019	100.0%	71.4%	2022	51.9%	
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合 （「全国学調・児童生徒質問紙」より）	小	79.7%	2019	95.0% 以上	78.4%	2022	-8.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、1人1台端末の導入当初は、機器操作スキル等の指導が中心にならざるを得なかったため、児童が課題解決に向けて考える機会が不足してしまったと推測される。 ・本年7月に公表された2023年度4月調査における小学校の数値は79.9%となり、数値が改善した。 ・令和5年度は「各教科等授業改善プロジェクト」を立ち上げ、各教科における1人1台端末の有効活用を研究し、主体的・対話的で深い学びをこれまで以上に展開していく。
	中	76.2%	2019	95.0% 以上	80.6%	2022	23.4%	

令和5年度の方向

- ・校務ICT化と並行して、「教職員の多忙化解消に関する協議会の提言R5」に基づく校務の廃止・縮小も含めた各校の取組を支援する。
- ・端末導入時は「まずは使ってみる段階」として、ICTを活用した授業作りは進んだが、ICTを活用することが目的となる授業が見られたため、ICTの効果的・効率的な活用を視点とした各教科等の目標に迫る授業実践・研究を通して、群馬ならではの新しい学びのさらなる発展を図っていく。
- ・各教科等における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を具現化するため、授業推進校の実践等を通して、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を随時更新するとともに、全県への周知を図る。
- ・高等学校では、学びのイノベーションリーダーの研修を実施し、学校全体の取組として授業改善やICT活用の推進を図る。

「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

- ・STEAM教育は素晴らしい取組であるので、成果を多くの生徒に共有できるよう、工夫を続けてほしい。
- ・特別支援教育におけるICTの活用が進んでいる。今後も、効果的な活用方法を研究していく必要がある。
- ・校務のICT化に関連して、不要な業務までICT化に取り組みでしまわないよう、先に業務内容の精査を行う必要がある。また、ICT化はあくまで負担軽減のための手段であり、目的にしてしまわないよう留意する必要がある。
- ・ICTリテラシー育成に係る教材が充実している。今後も、技術の進歩や社会情勢の変化に合わせたICTリテラシーの育成を図っていく必要がある。